

開会の挨拶

札幌学院大学社会情報学部長 千葉 正喜

社会情報学部では学部発足以来、社会情報学の形成、そして社会情報学上の重要な問題の発見とその解決を図ることを目指して、毎年この時期に「社会と情報に関するシンポジウム」を開催してきました。そして今年で13回を数えることになりました。

今回は、テーマを「教育問題」に求めました。社会情報学部は3年前にカリキュラムを改正し、それと併せて入学する学生全員がノートパソコンを携帯するよういたしました。これを前提にして各教員は、授業の内容・方法の工夫や改善に努力を重ねています。同時に、高等学校で「情報」を学んだ学生を間もなく迎えることに備えなければならないという必要性を感じているところです。社会情報学部では、教科「情報」の教員免許を出すことができます。実力のある教員を輩出することもまた、この学部に課せられた使命と考えております。このような教育上の問題は、社会情報学にとっても、また当学部にとっても、重要な問題であると考えています。

今日は、教育システム情報学会の会長をなさっています、電気通信大学の岡本敏雄先生、それから、附属高等学校の校長先生をされたこともあり、情報教育を専門に教えておられる東京都立大学の生田茂先生、さらに北海道の高校教育の現場からは、奥村稔先生をお迎



千葉正喜氏

えすることができました。

講師の先生方は大変お忙しい方々であります。講演をお引き受けくださった講師のみならず、そして日曜日にもかかわらず、このシンポジウムに参加いただいたみなさまに厚くお礼を申し上げます。また、このシンポジウムの開催にあたっては、私の知人で文部科学省初等中等教育局主任教科書調査官をされている福士景頁士さんにもお世話になりました。

このシンポジウムが、社会情報学と、この学部の教育上の関心と課題の解決に資する、有意義なものになることを期待しております。